

戦争より地震と蚊が怖かった兵隊さん

ベトナム戦争が激しかったころ、ある鉄道駅に勤務していた。近くに米軍基地があったせいで、勤務外の米兵たちがしばしば鉄道を利用してくれた。まだ駅には自動券売機が充分備えられていなかったその当時、時折米ドル紙幣を持って乗車券を買い求めようとする米兵がいて、そんな時にはよく銀行を案内したものだ。

ある日改札口にひとりのアメリカ人ベトナム帰休兵がふらりとやって来た。偶々ベトナム戦争について話していた時、数日前に初めて経験した地震の揺れには生きた心地がしなかったと言われ、日本ではその程度の地震はしょっちゅうだと言い返してお互いに大笑いした。帰休兵はその地震は人生で最も恐ろしい体験だったと言い、彼にとってはベトコンの奇襲攻撃より、天地がひっくり返るような地震やジャングル内の蚊の大群の方がよほど怖いと言っていた。

しばらくして不毛のベトナム戦争の実態を自分の目で知りたくなり戦火の益々激しくなっていたベトナムへひとり出かけた。サイゴン市内のホテルにチェックインした時、フロントでマッチとろうそくを手渡され、エレベーターには極力乗らないようアドバイスされた。ホテルの部屋から見える立ち昇る黒煙、‘ボン！’と遠くで聞こえる大砲の音、昼夜を分かつず走り回る軍用装甲車のけたたましいサイレン、そして夜になると度々起きる停電などに言い知れぬ不安を感じた。マッチとろうそくをくれたわけも漸く分かった。

南ベトナムの首都には、あの帰休兵が悲鳴を上げた蚊の大群はいなかったが、反対に私には蚊の大群より市内の米軍宿舎前で歩哨兵から不意にライフル銃を向けられた方がよほど怖かった。サイゴンを訪れた翌年、ベトコンによるテト攻勢が始まり、ベトナム戦争は新たな局面を迎えた。

いま NHK の朝ドラ「ごちそうさん」で映し出される空襲シーンを観ていて、久しぶりにベトナム戦争と、戦時中米軍機の来襲に備えて母や兄弟と身を潜めた恐怖感いっぱいの防空壕内の臨場感を思い出させられた。